

統合型GISの留意点

高知工科大学
社会システム工学科
高木方隆

共用データと個別データ

- 共用データ（複数の課室で利用）
 - 基図, オルソ画像
 - 各種規制区域データなど
- 個別データ（各課室のみで利用）

データの流通を常に念頭に置いた設計

GISデータ流通のために

- GISデータの統一フォーマット
 - 地理情報標準, G-XML
- メタデータの整備
 - 更新履歴
 - 測地系, 座標系

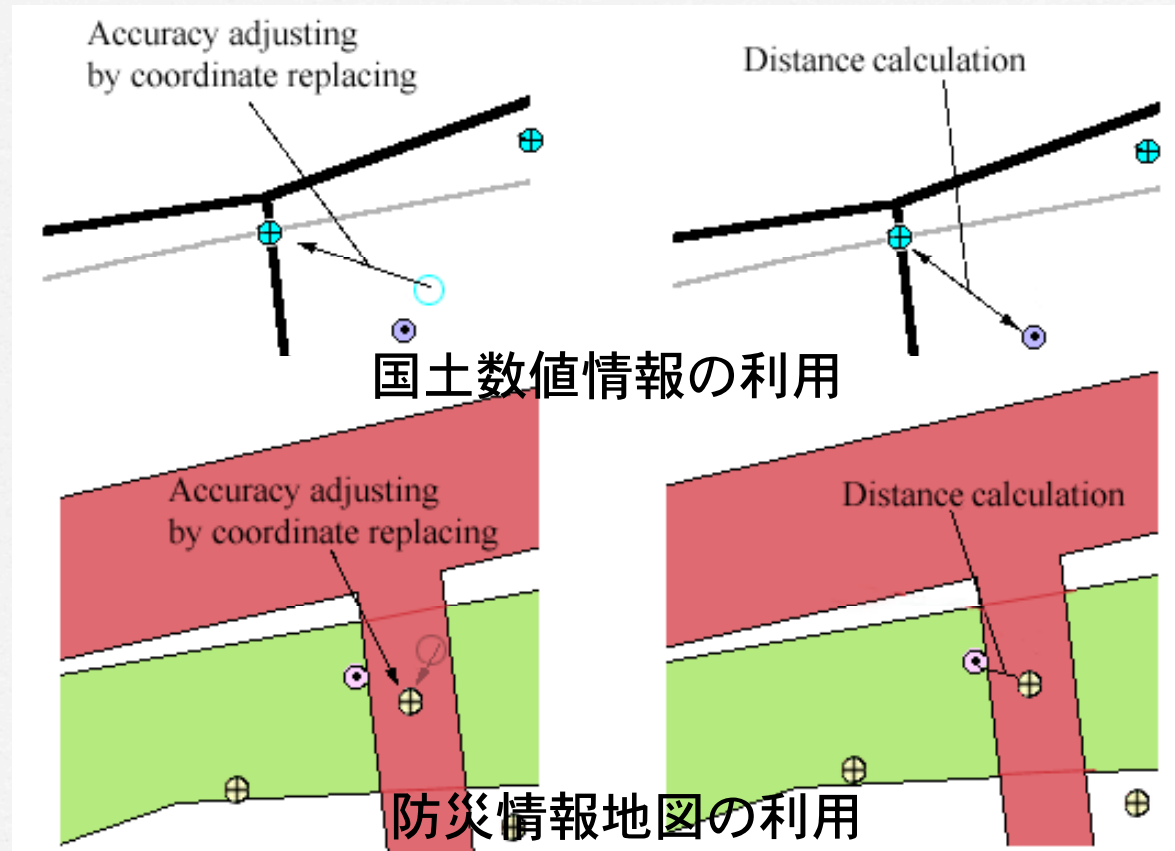
GIS実証実験でも成果を得る

GIS実証実験で得たもの

高知工科大学での取り組み

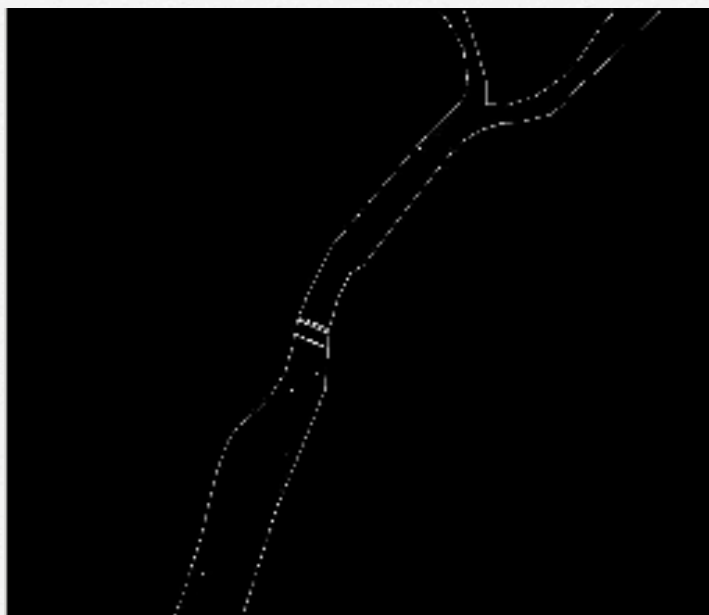
- H12年度
 - データの重ね合わせによる問題点の把握
- H13年度
 - GISデータフュージョンによる問題解決
- H14年度
 - オルソ画像の必要性の認識

位置ずれの問題と解決策



60%程度は解決可能

衛星画像の活用



80%程度に向上

画像は極めて有効な補助データとなり得る

基図をどうするか？

- 1/2,500レベルのベクトルデータ
 - 整備費用は高く，更新も問題
 -
- 25cm分解能のオルソ航空写真

安く基図を整備する 1

- 自治体毎での整備は非効率
 - 例えば、県下全域で一気に整備し、費用を県・市町村で按分
- 市町村合併にも対応可能
 - 境界を越えたデータも不自由なく利用可能
 - シームレスな地図が不可欠

安く基図を整備する 2

- 公共測量作業規定に則さない
 - 新しい測量手法が発達 安価で正確な地図が生成可能
 - 作り方を規定する → 成果物を評価する
- 公共図書の必要性
 - 公共図書でなくとも様々な活用方あり

今後極めて重要なトピック

安くアプリを導入する

- 一般業務に特殊機能は不必要
- 隣接市町村との連携開発
- ASPの利用

データハウスの必要性

- 高知県情報生活維新協議会（GIS推進WG）
- 自治体データの管理整備更新
 - データ流通窓口
- GISサービス基盤の提供
 - アプリ開発，ASP事業

現在，高知ソフトウェアセンターが事務局

住民サービスを主目的に

- 現状や計画を視覚的に表現
- 自治体毎に見せ方が異なるのは問題
 - 市町村合併を見越した取り組み
 - 隣接市町村との連携 → 特に防災面で

業務の効率化のためのGISでは不十分

統合型GISの要点

- データ流通を意識した設計
- 住民サービスを中心とした内容
- 基図の安価で効率良い整備と更新
- データハウス整備の必要性